

事例5:「たこをつくって あげよう！」 5歳児(1月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
(10の姿)との関連

- ③協同性 ⑥思考力の芽生え
- ⑨言葉による伝え合い

これまでの姿

・身の回りの材料を用いた製作遊びを通して、自分が作りたいもののイメージをもち、必要な素材を選ぶことや工夫して作ること、友達同士作ったもので遊ぶことを楽しんできている。



◎ねらい◎内容

◎友達と一緒に、お正月の季節感や伝統的な日本の文化に興味をもち、様々なお正月遊びで使うものを工夫しながら作って遊ぶことを楽しむ。

- 見聞きした体験をもとにイメージをもち、友達と相談しながら、凧などを本物らしく作ったり、作り変えたりして工夫して遊ぶ。
- 様々なお正月遊びに触れる中で、ものの性質や仕組みに興味や関心をもつ。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

クラスの色々な友達とつながりをもつ
遊びや生活の集団が広がる これまでの経験を生かす
満足感を味わう 自分らしさ(よさや気持ち)を発揮する
身体をいっぱい使う 自分の力を発揮する 友達と共感し合う

イメージや考えを交流する

何度も挑戦する 本物らしさにこだわる
ルールを考える イメージを膨らませる
失敗しても諦めない 経験を生かして再現する

探究することを楽しむ

遊びの様子(番号:10の姿との関連)

冬休みの家庭での経験から、お正月遊びに興味をもったA児から、「海で凧あげをした。」と声が聞かれた。他の幼児たちからも「凧上げしたい」という声が聞かれ、早速、自分たちで凧をつくろうとする姿が見られた。

保育者の「凧って何でできてるかな？」という投げかけに、**⑥⑨A児が「ペラペラじゃないと飛ばないよ」と答え、B児も「そう！軽いのがいいよね」と、飛ばした経験を思い起こして共感し、障子紙やビニール袋、竹ひご、ストローなどの素材を選び、作り始めた。**

⑥幼児たちは実物と見比べながら、竹ひごを凧の形に応じて、両端に貼ったり、八や十の字に貼ったりと、思い思いに工夫している姿も見られた。作っていく途中、③⑨「つけすぎや。」「もっと端に貼れば。」などと言いつつ場面もあったが、自分の思いにこだわって作ったり、友達のアイデアを受け入れたりしながら凧作りが続いていった。

★環境の構成

○保育者の関わり

★凧あげをきっかけに、どの幼児もお正月遊びを経験できるよう、保育室に昔遊びの玩具や、まねて作ることでできる素材(障子紙・ビニール袋・竹ひご・ストロー等)を準備しておく。

○凧が風に乗ってあがることへの興味・関心や探究心から、凧の不思議さやその素材に目が向くよう声をかけ、幼児の経験からの気づきを引き出すようにする。

★自分なりに工夫して作って遊べるように、製作コーナーの選べる素材の種類を増やしたり、友達同士相談しながら作れるよう、机などのスペースを広くとったりする。

○凧作りを一緒に楽しみつつ、幼児同士で考えを出し合い試行錯誤をしている最中は、あえて保育者が入らず、見守りながら、必要な時は一緒にアイデアを出していくようにする。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

「風をあげる・つくる」活動のプロセス

季節の遊びや文化に親しむよさを感じる

友達と遊ぶ・関わる

まねる・比べる

様々な遊びを楽しむ

作って遊ぶ

どんな遊びか知る・体験する

興味・関心・目的意識・集団意識

季節の遊びや文化に興味をもって関わる

・安心・安定した生活(基盤)

・保育者の存在・基本的生活習慣

⑩豊かな感性と表現

これまでの経験を生かし、友達と一緒に考えたり試したりしながら、自分なりのアイデアや作り方で風作りを楽しんでいる。

③協同性

自分なりの見通しをもって作る中で、お互いに風をうまく飛ばせるよう、気付いたことを主張したり取り入れたりしながら、一緒に作っている。



③協同性

数日間工夫して作ってきた友達同士で、飛ばせたことを喜び、認め合っている。



⑨言葉による伝え合い

一緒に作った風を飛ばせた喜びや、これまでの努力に共感する気持ちを言葉で伝えている。

⑥思考力の芽生え

風あげの経験やその素材を振り返って友達と考えを出し合い、薄さや軽さに着目してふさわしい材料を選び、よく飛ぶ風を目指して自分なりに試行錯誤して作ろうとしている。

小学校教員の気づき

◆幼児のつぶやきを逃さず、自分たちでやってみようとする意欲や、友達と一緒に探究する楽しさにつなげようとしていた。小学校でも児童の考えを生かす授業をしたい。

◆イメージが沸くよう、様々な素材を準備していた。
自分で選んで作ることができるよう、さりげない環境の準備がされていた。

◆幼児が何に興味をもっているか、何をしたいと思っているのかなど、一人一人に丁寧に関わっている姿がすごい。
遊びの中に、小学校にもつながる学びがたくさんあった。



保護者への発信ポイント

◆風を「作ることができた」だけに目を向けるのではなく、風ができるまでの幼児の試行錯誤を楽しめるように、そのプロセスをお便りなどで伝えていきましょう。

◆保護者と一緒にした実体験は、心に強く刻み込まれたようです。家庭での様々な体験が、学びにつながる大切な経験であることを伝えていきましょう。

